

# 宕陰のカボチャでランタンづくり

かがやき新聞  
十月号



京都市文化市民局地域力推進室北部山間かがやき隊  
宕陰・水尾地域担当 五明 昇祐  
京都市右京区嵯峨嵯原宮ノ上町二―五 宕陰出張所  
電話 〇七七― 四四 〇三一四



作品は 8 日から京都市動物園で飾られました。多くの人が注目していました！

## 宕陰ハロウィン祭2018

7日、宕陰フアンの方々がお心待ちにしていた宕陰ハロウィン祭が今年も行われました。今年の夏は豪雨や猛暑、台風、自然災害が多かったですが、それでも多くのカボチャが収穫できました。ハロウィン前日も台風25号の接近により、開催が危ぶまれましたが、何とか台風は逸れ、お天気にも恵まれました。

家族連れやご夫婦の方、山ノ内児童館の子どもたちも京都外大のお兄さんやお姉さんと一緒に遊びにきてくれました。京都学園大の学生さんたちもお手伝い、静かな宕陰の棚田がとてにぎやかになりました。

「こうすればいいのかな？」と考えながら作る子供たち。  
「そうや、中をスプーンで取り出すんや！」

宕陰の農家のおじさんに教えてもらいながら、家族や友達同士、思い思いのランタン作り、ベーシックな「ジャック・オー・ランタン」だけでなく、トトロやちびまる子ちゃん、友蔵といった人気キャラクターも、遊び心にあふれています。ランタンを掘り終わってからは、トラクターの乗車体験やわら細工づくり、芋掘りなどのアトラクションがあり、子どもから大人まで楽しんでおられました。

「ホラ、見ろよ、見ろよ、バッタ採れたゾ。」  
昆虫採集を楽しんでいる子も。そうだね、ここじゃないとできないもんね。

宕陰の自然と人々のやさしさに触れられた1日でした。

# 薫る藤袴に浅葱斑は舞う

水尾フジバカマ鑑賞会

9月29日から10月7日にかけて、水尾でフジバカマ鑑賞会が開かれました。台風の影響により中止になった日もありますが、それでも水尾の人々が手塩にかけて育てたフジバカマは美しく咲きほこり、花の匂いに誘われて台湾や富士山からアサギマダラがやってきました。

多くの人々がフジバカマとアサギマダラを見に来場されました。花と蝶の写真を撮る人、どこからやってくるのか調べるべく蝶にマーキングする人、それぞれが思い思いにフジバカマとアサギマダラを楽しんでいました。

水尾に住む猫もやってきました。フジバカマ畑に何の用かと思いきや、ジャンプしてアサギマダラを捕食。貴重種だからやめてくれよ・・・(絶望)。しかし、アサギマダラにはアルカロイド系毒物質があるので、吐き出していました。綺麗な蝶には毒がある(意味深)。



アサギマダラには  
気をつけよう！  
(注意喚起)

\*食べなければ無害です。

フジバカマ鑑賞会の期間中、愛宕山に登山をしていたご年配の方が、夜の7時に家族に「迷った」と連絡をしたのを最後に行方不明となった遭難事故が発生しました。

警察や消防の方々が出動して懸命の捜索活動が行われましたが、悲しいことに、ご遺体となって見つかったそうです。

私自身も愛宕山に二度登ったことがあります。日中、山道に沿って登ればそんなに危険ではありませんが、京都市内の山で、愛宕山は大文字山に次いで遭難者が多いそうです。やはり道を踏み外したり、夜間になれば、山はとても怖いものです。

## 慣れていても山は危険

## 登山届(登山計画書)を忘れずに

フジバカマ初日に警察の方がやってきて、登山届(登山計画書)の提出を促すチラシを配るよう要請されました。

個人的な話になるのですが、先日奈良県の吉野から山上ヶ岳まで歩きました。しかし、登山届は出さなかったのです。以前も登ったことがあるから、大丈夫かなと思ったのですが、台風後の土砂崩れで道がなかったり、準備も不十分だったので、遭難しかけました。無事で帰って来れたものの、やはり登山届は出さなければいけないと反省しております。登山届は最寄りの警察署に提出することになっていますが、京都府警はじめ多くの都道府県警では、インターネットによる電子届出も可能です。安全で楽しい登山にするために、登山届は忘れずに提出しましょう。

## 隊員雑感

▽「断金之交」という語は『易経』における「二人同心、其利断金」「同心之言、其臭如蘭」、に由来する。人が心を合わせれば、金属も切れるし、蘭のようにいい匂いがする、という意味だ。▽「蘭」というのは中国語ではフジバカマのことだ。水尾の人々が一つになって育てられ、今年もきれいに咲いたフジバカマ、匂いに誘われてアサギマダラもやってきた。

▽蝶は遠くから飛来し、花の蜜を吸うだけではなく、受粉に貢献するので花にとっても都合だ。アサギマダラのように地域を愛し、遠方からわざわざ来てくれる人も多く、地域の振興に尽力してくれる人もいます。▽岩陰・水尾の人口は減少傾向にあるが、岩陰・水尾を愛する人がいる。こうした人々が増えれば、地域は活性化し、将来性が見えてくる。「断金之交」みんな力を合わせ、岩陰・水尾の魅力を発信する時だ。